

ツールキット活用のコツ

初めてプログラムを評価する利用者は、各セクションのツールキットをじっくり読む必要があるかもしれません。何らかの評価トレーニングを積んでいる方々は、ツールキットの一部のセクションに手早く目を通すことができるかもしれません。

ツールキットの内容

このツールキットは、主な5つのセクションで構成されています。

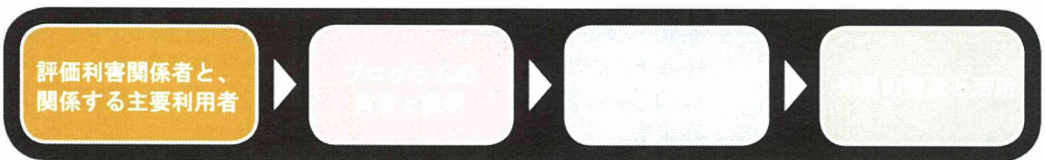
1. **評価の手引き**— このセクションは、経験が浅い評価者に評価の重要な概念を紹介します。プログラム評価の定義、「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」の説明、そしてツールキット利用者が評価活動に着手する前に重要で現実的な問題を検討する際に役立つことを目的とした、評価計画についてのガイダンスを含みます。
2. **CCCプログラムの評価方法**— このセクションは、ツールキット利用者にCDCフレームワークのアプリケーションを一つ一つ解説することを目的として構成されており、一連のツールとテンプレートを盛りこんでいます。セクションは資金提供を受けるプログラムの評価要件の概観から始まります。
3. **評価用語の解説**— このセクションは、ツールキットを通じて使用される、重要な評価用語の定義と概念を示します。この用語解説がCCCBの評価の概念と用語の解釈と利用を反映している点に留意することが重要です。したがって、評価に関する他の資料に示されるものとやや異なる可能性があります。
4. **さらに検討を進めるために**— このセクションは、被交付者がツールキットの内容の範囲を超えてさらに評価スキルを高めて磨きをかけるうえで役立つかもしれない、評価に関する追加資料と厳選されたトレーニングの機会の一覧を示します。被交付者がCCCBの資金提供を受けたプログラムに対する評価要件を満たす上で、このツールキットに提供されるガイダンスと例が役立つことを期待しています。しかし、このツールキットが全てを含んだ評価資料であるとは私たちは考えていません。評価は1つの資料で十分に扱うことはできない、幅広い研究分野です。
5. **ツールキットの評価**— 私たちは今後の評価を通じて集めたフィードバックをツールキットの改善のために活用し、被交付者の評価トレーニングの開発に情報を提供します。CCCBは、被交付者にとって使いやすく役に立つ、質の高い技術支援ドキュメントを提供することを目指しています。この進行中の取り組みを支えるために、私たちは(1)ツールキットの内容とレイアウトへの利用者レベルでの満足感に関する利用者からの情報、(2)資料の改善についての提言、(3)ツールキット使用についての問題、利点、結果に関する現場からの報告を収集することを目的としたツールキットの評価を実施します。このセクションは、私たちの評価のための計画の概要を盛り込んでいます。

ツールキットの使い方

このツールキットは、評価計画テンプレートの記入について一通り説明することを目的としています。このテンプレートの欄に記入することで、資金提供公募（funding opportunity announcement, FOA）に規定された被交付者業績に対する期待を満たす評価計画を作成することができるでしょう。しかし、このテンプレートは慣例とすることを意図したものではなく、必要であれば、あなたの評価計画独自の内容とニーズに最適となるよう変更しなければなりません。評価計画は、いったん作成すれば、1年に1回かさらに頻繁に更新することができます。

評価計画テンプレート

評価利害関係者と、関係する主要利用者



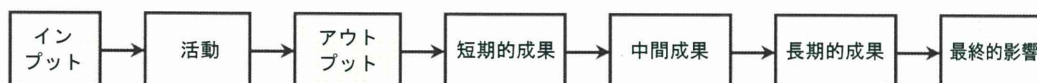
- I. 利害関係者の特定：(1) 評価に利害関係があり、かつ(2) 評価結果を利用する、主な個人または団体を列挙して下さい。評価に関する各利害関係者の興味の対象を明らかにして下さい。

評価利害関係者	利害関係者が知りたい点

プログラムの背景と説明



- I. 包括的がん対策（CCC）プログラムの重要な構成要素：あなたのプログラムのロジックモデルの写しを挿入するか、またはあなたのプログラムのリソース、主要活動、およびプログラム活動の予想されるアウトプットと成果を、表および／または記述式で説明して下さい。



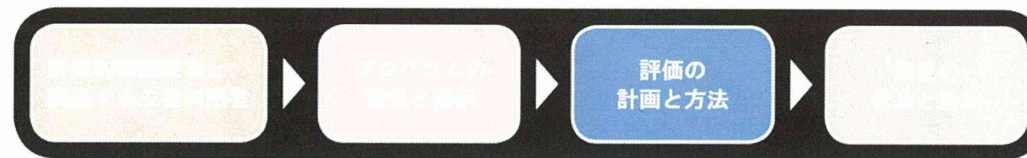
- II. 進展段階：あなたのプログラムの進展段階について、簡単に説明して下さい。

- 完了した主要な活動、現在取り組み中の活動、そしてまだ開始していない活動は？

- III. プログラムの内容：あなたの CCC 活動の成功に影響する可能性があるプログラム独自の内容について、簡単に説明して下さい。

- あなたの CCC 活動に影響がある歴史的、政治的なプログラムまたは団体、および地域社会的要因は何ですか？またどのように影響を与えますか？

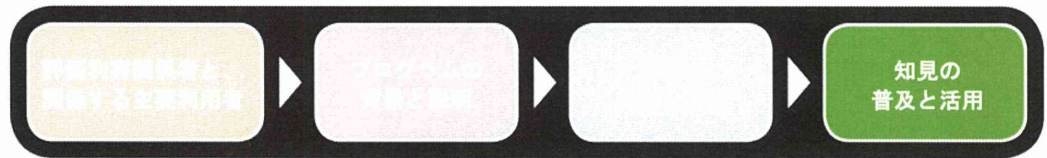
評価の計画と方法



IV. 評価の計画と方法用マトリックス

焦点	評価課題	指標	データ収集源	データ収集方法	データ収集時期	データ解析
評価を行う CCC の構成要素	明らかにしたい点	評価課題に取り組むために必要なデータの種類	どこでデータを入手するか	どのようにデータを入手するか	いつデータを入手するか	データをどのようにまとめ、解釈するか

知見の普及と活用



I. 効果的な評価報告書作成のためのチェックリスト¹

- 対象とする利用者が使用するのに間に合うように、中間報告書と最終報告書を提供する。
- 情報の受け手を関与させることで、報告書の内容、形式、およびスタイルが情報の受け手に合うように調整する。
- 要旨を含める。
- 利害関係者の特徴と連携手段の概要を示す。
- プログラムの骨子を（例えば付録に）記載する。
- 評価の焦点とその制約について説明する。
- 評価計画と手順の十分な要約を含める。
- 必要な全ての技術的情報を（例えば付録に）提供する。
- 評価判断のための標準と基準を明記する。
- 評価判断とどのように証拠に裏付けられているかを説明する。
- 評価の長所と欠点の両方を列挙する。
- 活動のメリットとデメリット、および資料の解釈と共に提言について話し合う。
- プログラムのクライアントおよびその他の利害関係者に対する保護を確保する。
- この知見によって人々や組織がどのような影響を受ける可能性があるかを予想する。
- 必要があれば、少数からの意見または返答を提示する。
- 報告書が正確で公平であるかを検証する。
- 報告書を論理的に整理し、適切な詳細を含める。
- 専門用語を排除する。
- 実例、イラスト、グラフ、および記事を使用する。

¹ Adapted from Worthen, B. R., Sanders, J. R., & Fitzpatrick, J. L. (1997). Program evaluation: Alternative approaches and practical guidelines (2nd edition). New York, NY: Addison, Wesley Logman, Inc

II. 普及手段用マトリクス

情報の受け手	知見共有のための形式と手段	予定表	責任者

III. 評価結果の活用実現のためのチェックリスト

- 利害関係者の会合で結果を共有し、話し合う。
- プログラム改善のための提言の優先順位付けについて、利害関係者と話し合う。
- プログラム改善のための提言の運用実施について、利害関係者と話し合う。
- 利害関係者の組織業務または CCC に関連する介入の向上のために、利害関係者が評価知見を適用可能な方法を話し合う。
- 評価結果と話し合いの要点を利害関係者の会合記録に含める。
- 評価知見と提言をスタッフの定期会合で再検討する。
- スタッフメンバーが提言を実行できる対策方法を確認する。
- 改善提言の実行のために活動を調整、記録、監督するプログラムのスタッフメンバーを確認する。

1. 評価の手引き

この評価の概論は経験が浅い評価者のためのものです。「評価の手引き」は網羅的な資料ではありませんが、以下の基本的なテーマを取り上げます。

- プログラム評価の定義と様々な種類の評価の説明
- プログラム評価と、調査監視および研究との違い
- 「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」の説明
- 評価立案の実践的な方法
- 評価計画の起草

重要な定義と説明

プログラム評価は、「プログラムについて判断し、プログラムの有効性を改善し、および／または将来のプログラム作成に関する決定に情報を提供するための、プログラムの活動、特徴、および成果に関する系統的な情報収集」²です。CCCBは、プログラム評価の重要な目的は公衆衛生業務を向上させることである、という前提のもとに運営しています。

様々な種類のプログラム評価について

プログラム評価にはいくつかの種類があります。そのうちの一部は、以下に述べる公衆衛生分野で一般的に使用されています。ただし、このリストは網羅的なものではありません。

- 形成的評価とは、適切な対策戦略を特定するプログラムとフォーカスグループの作成に情報を提供するために実施される評価を意味します。例えば、コミュニティのニーズと資産の評価を実施します。
- プロセス評価または実施評価は、プログラムが意図されたとおりに実施されたかどうか、またその理由を評価するために実施されます。
- 成果評価または有効性評価は、プログラムが意図した短期的成果、中間成果、長期的成果の進捗を遂げているかどうかを評価するために実施されます。

² Patton, M. Q. (1997). *Utilization-focused evaluation: The new century text* (3rd edition). Thousand Oaks, CA: Sage Publications.

- **総合評価**とは、時にはプログラムの実施と有効性の評価、すなわち評価者が所定のプログラムに対してプロセスと成果両方の評価活動を実施する評価を指して用いる用語です。
- **効率性評価**は、プログラムの活動がリソースの効率的な使用により行われているかどうかを評価するために実施されます。
- **費用効果評価**は、プログラムの恩恵がプログラムを生み出す費用を十分に上回っているかどうかを評価するために実施されます。
- **帰属評価**は、生み出される成果が、同時発生するかもしれない他の要因またはイニシアチブではなく、プログラムと関連づけて示すことができるかどうかを評価するために実施されます。

CCCB 評価で期待されること

最低でも、CCCB の被交付者は自身の取り組みのプロセス評価と成果評価を実施するよう奨励されています。あなたのプログラムの計画および実施に関するガイダンスについては、このツールキットのセクション2（CCCプログラムの評価方法）を参照して下さい。

プログラム評価と調査監視の違いは？

プログラム評価と調査監視は対になったプロセスです。調査監視は、多様な要因（例えば、行動、考え方、死亡など）の継続的なモニタリング、または定期的なデータ収集です。プログラムの計画立案と形成的評価活動に組み込まれる場合、調査監視データはプログラムの範囲と取り組みを集中させる助けとすることができます。調査監視データは、プログラム活動、アウトプット、および成果に関する評価課題に取り組むための良いデータ源になる可能性もあります。しかし、プログラム評価は調査監視よりも範囲が広く、また調査監視の域を越えたデータの収集と分析を必要とします。

評価は、一般に、プログラム文書審査、プログラム参加者記録、およびフォーカスグループとプログラムスタッフおよび参加者との面接などの様々なソースからのデータの収集、分析、および統合を伴います。調査監視データだけでは、プログラム評価課題、特にプロセス評価課題に取り組むには不十分であることが多いです。成果評価の場合でさえも、調査監視データが評価者に有用である程度には限界があることが多いです。例えば、行動危険因子サーベイランスシステム（Behavioral Risk Factor Surveillance System, BRFSS）などの一部の調査監視システムは、大規模な集団（州の癌スクリーニング率など）で行動を測定することができますが、これらのシステムは CCCB の資金提供を受けるプログラムが対象とする可能性があるコミュニティーレベルまたは小規模集団での成果の変化の測定には標本サイズが不十分であることが多いです。さらに、健康状態に関する調査監視データの変化を見るには数年かかるおそれがあります。

プログラム評価と研究の違いは？

プログラム評価と研究は、公衆衛生の分野に対して共に重要な貢献をしますが、目的、優先事項、および活動の点で両者は異なります。しかし、公衆衛生の一部の研究者はより参加型で応用的な研究モデルを導入しているため、このような違いの一部はもはや明確ではありません。同様に、公衆衛生プログラムの一部の評価は、帰属に取り組むことを意図しています。

実践に基づく証拠

プログラム評価は、(1) 公衆衛生実務と研究課題の両方に情報を与え、(2) 厳しく検証された証拠に基づく実践を補完することができる、介入のための実践に基づく証拠を構築するためにも役立ちます。

1

プログラム評価と研究の違いは、しばしば「研究は証拠を求め、評価は改善を求める」(Research seeks to prove; evaluation seeks to improve)³という格言に要約されます。Patton は、その著作「Utilization-Focused Evaluation」で、この格言について更に詳しく述べています。

基礎科学研究は、新しい知識を発見し、理論を検証し、真理を確立し、時間と空間にわたって一般化するために行われます。プログラム評価は、時間、場所、価値、および方針の状況的範囲内で、決定を知らせ、選択肢を明らかにし、改善を特定し、またプログラムと方針に関する情報を提供するために行われます。研究は、知識と真理を生み出すことを目的としています。有用な評価は行動を支援します。⁴ (p.24)

「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」

このツールキットのガイダンスは「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」と緊密に連携しています。このフレームワークは、公衆衛生プログラムの優れた評価は、単に正確な証拠を集め、妥当な結論を導くだけのものではなく、プログラムの改善に活用される結果を生み出すものであるべきだ、という前提に基づいています。

「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」とは？

「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」は、公衆衛生プログラムの優れた評価を実施するための6ステップと4群からなる一連の基準です。フレームワークの6ステップを図1の外輪に示し、また以下に説明します。

1. 利害関係者と連携する

利害関係者は、プログラムによる投資を受けた、評価の結果に興味を持つ、および／または評価結果を用いて行われることと利害関係がある、人々または団体です。利害関係者のニーズと興味に取り組むことは、良好なプログラム評価に欠かせません。

2. プログラムについて説明する

プログラムの詳細な説明は、あなたのプログラムのあらゆる構成要素と目的とする成果を明らかにし、あなたの評価を最も重要な課題に集中させる助けとなります。

³ U.S. Department of Health and Human Services, Centers for Disease Control and Prevention, Office of the Director, Office of Strategy and Innovation. (2005). *Introduction to program evaluation for public health programs: A self-study guide*. Atlanta, GA: Centers for Disease Control and Prevention.

⁴ Patton, M. Q. (1997). *Utilization-focused evaluation: The new century text* (3rd edition). Thousand Oaks, CA: Sage Publications.

3. 評価デザインの焦点を絞る

このステップは、重要な大部分評価課題と評価のための適切なデザインの決定を含みます。このステップは、時を選ばずプログラム全体を評価する必要がない仮定に基づいています。

4. 確かな証拠を集める

評価課題に取り組むには証拠を集める必要があります。このステップは、評価で焦点を当てるプログラム構成要素の指標の作成と、データ収集方法と収集源の決定を含みます。

5. 結論の妥当性を示す

評価がプログラムの有効性を示すため、プログラムの改善を支援するため、または説明責任を示すために実施されるかどうかに関わらず、ステップ4で集められた証拠の分析と解釈が必要です。ステップ5は、証拠の分析、分析に基づくプログラムに関する主張の作成、利害関係者の価値観に対して証拠を比較することにより主張の妥当性を示す段階を含みます。

6. 得られる教訓の活用と共有を実現する

評価知見は、時宜にかなった、一貫性のある偏りのない方法で、主要な利害関係者と共有しなければなりません。被交付者は、知見の使用と評価からの提言をプログラムの改善に活用しなければなりません。評価結果は、プログラムの有効性を示すため、説明責任を示すため、また資金の妥当性を示すために活用することもできます。

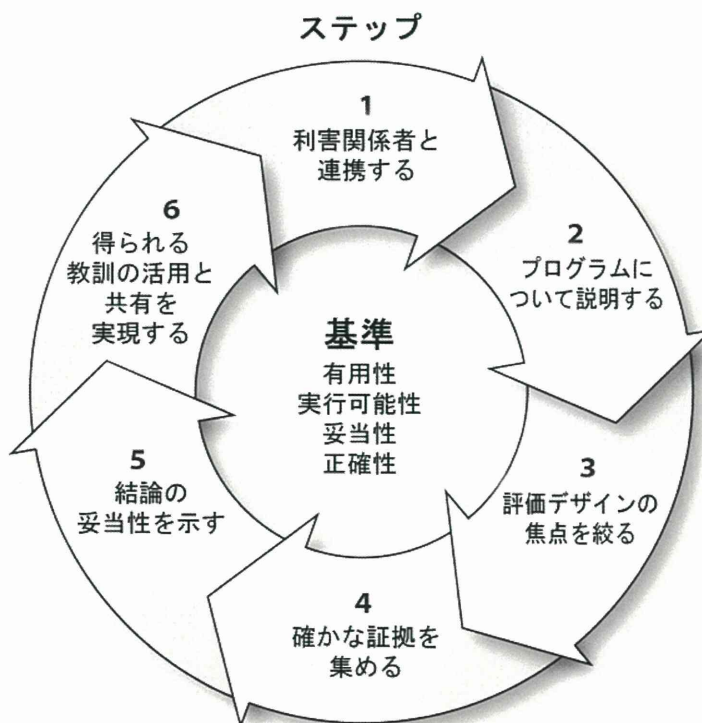
フレームワーク・ステップの適用

フレームワークはプログラム評価を6ステップで示していますが、評価者はステップ間を柔軟に移動して、評価を直線的なプロセスとして扱わないことが重要です。例えば、フレームワークの最初のステップは「利害関係者と連携する」で、評価者は評価の計画起案と実施の開始時に確かに利害関係者と連携しなければなりません。評価プロセス全体を通じて利害関係者と連携するメリットがあります。例えば、評価知見を主要利用者と共有し、プログラムの改善を支援する活用を実現する上で、利害関係者が大いに役立つかもしれません（ステップ6）。

フレームワークの各ステップは、評価のための一連の基準により報告されます。フレームワークのステップをプログラム評価のプロセスを通じて被交付者の指導に活用する場合には、フレームワーク基準は、フレームの各ステップの範囲内の評価活動が取り得る選択肢について情報を提供することができます。合計30のフレームワーク基準がありますが、これらは、図1に示すフレームワークの略図の中央の囲まれた部分に挙げた4つの群にまとめられます。

- **有用性**：誰が評価結果を必要としているか？評価が有用な情報を、時宜を得た方法で必要とする人達に提供できるか？
- **実行可能性**：計画される評価活動が、手持ちの所定の時間、リソース、および専門に対して現実的であるか？
- **妥当性**：評価が個人の権利を保護し、関与した個人の福祉を保護しているか？最も直接的にプログラムの影響を受ける、参加者または周辺地域のコミュニティーなどの対象と連携しているか？
- **正確性**：評価は 確かで信頼できる知見を生み出すことができるか？-

図1 「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」



下記の例は、評価の基準によってフレームワークのステップがどのように情報が与えられるかを説明します。

例：「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」の各ステップへの評価基準の適用

時として、これらの基準は選択の探求の幅を広げますが、各評価ステップでの選択肢を扱いやすい数に減らすのに役立つ場合も多いです。例えば、最初のフレームワーク・ステップ「利害関係者と連携する」では、基準は利害関係者を構成するのは誰かについて幅広く考えるのに役立ちます。一方で、基準は重要な現実的な問題点を提起することで、潜在的な利害関係者のリストを扱いやすい数に減らすのに役立ちます。

- 有用性基準を適用する場合、「誰が評価結果を使用するか？」を検討することで、利害関係者を明確にすることができます。
- 実行可能性基準を適用すると、「利害関係者の連携のために、どの程度の時間と努力を充てることができるか？」という検討を促すことができます。
- 妥当性基準を適用すると、「倫理的であるためには、どのような利害関係者が評価プロセスに関わる必要があるか（おそらく、評価対象の介入の対象者、または介入対象のコミュニティの指導者）」といった特定の倫理的問題の検討を促すことができます。
- 正確性基準を適用すると、「このプログラムの正確な状況を描き出すためには、どのくらい幅広い利害関係者の連携を求める必要があるか」といった検討を促すことができます。

プログラム評価のための計画

1

評価の取り組みが効果的に実施され、適切に管理され、またプログラムの改善に有用であるよう保証するために役立つ評価のロードマップまたは計画の作成は、重要なステップです。プログラムの責任者と評価者が CCCB の資金援助を受けるプログラムの評価活動を開始する前に検討しなければならない現実的な問題が数多くあります。例えば、プログラム評価を組織内でどのように考えるか、誰が評価を指揮して実施しなくてはならないか、そして評価にかかる費用をどの様に賄うかについて検討する必要があります。

CCCB の資金援助を受けるプログラムの評価が重要である理由

- CDC は資金援助を受けるプログラムが自らプログラムを評価することを求めています。
- プログラム評価によって、プログラムの目標に向けた進展をモニターすることができます。
- 評価プロセスは、プログラム改善の機会を特定するのに役立ちます。
- 評価プロセスは、リソースの多大な無駄が生じる前に問題部分を特定するのに役立ちます。
- 評価プロセスは、どのような効果があれば成功とみなして良いかを特定するのに役立ちます。
- 評価知見は、さらなる資金調達と支援の必要性が妥当であることを示すのに役立ちます。

プログラム評価のための組織的支援は、実際、どのようにしたら良いのか？

あなたが属する組織には、CCCB の資金提供を受けるあなたのプログラム評価の計画起案、実施、および活用を容易にできるリソースがあるかもしれません。例えば、スタッフを対象とする評価者がいるかもしれませんし、あるいは、あなたが属する組織は技術的支援を提供できる、強力な実績ある外部評価者との関わりがあるかもしれません。また、CCCB の資金提供を受けるプログラムに関わる責任者が、評価の取り組みのための予算に関してアドバイスできるかもしれませんし、またはデータ収集ツールと評価報告書のテンプレートを提供できるかもしれません。あなたが属する組織が定期的にプログラム評価を実施している場合、CCCB の資金提供を受けるあなたのプログラムの評価活動の支援のために共有して利用できるリソースが数多くある可能性が高いです。

逆に、あなたが属する組織で評価活動が必須の活動であると一般に考えられていない場合、CCCB の資金提供を受けるプログラムの評価を始める前に、協力の同意 (buy-in) を得る必要があるかもしれません。あなたが属する組織や責任者から協力の同意を得ることで、計画した評価活動を実行するために必要であるかもしれない人時、資金、および協力関係またはリソースを求める承認を得る助けになるかもしれません。CCCB の資金提供を受けるあなたのプログラムを評価することの重要性について、組織の責任者、主要な利害関係者、および提携先の指導者を教育することによって、プログラム支援の育成を手助けすることもできます。

誰がプログラム評価を指揮・実施するのか？

事実上、CCCB の資金提供を受けるあなたのプログラム評価を誰が実施して指揮するのかを決定する場合、検討すべき重要な事柄は資金です。考慮すべきいくつかの選択肢を以下に挙げます。

- 外部の評価契約者：CCCB の資金提供を受けるあなたのプログラム評価を実施するために、あなたが属する組織外の個人と契約することもできます。契約者は、大学または研究企業を通じて仕事を行うか、あるいは評価サービスを独立コンサルタントとして提供するかもしれません。
- 内部評価チーム：あなたが属する組織には、評価の計画と実施によりプログラムを支援する部署横断的な専門家チームがあるかもしれません。
- 評価諮問グループ：CCCB の資金提供を受ける多くのプログラムは、提携する CCC または戦略的計画を立案する提携事業にサービスを提供する評価者がいます。評価課題と指標の特定などの重要な評価活動に関して、プログラムの主要なスタッフにアドバイスできる評価の経験と技術があるパートナーによる小委員会を設置すると有益かもしれません。
- その他の公衆衛生職員：疫学者や生物統計学者を含む各方面の公衆衛生専門家は、評価活動、特にデータ収集、解析、および報告活動を支援できる技術を備えています。

これらの選択肢は別々にリストアップされていますが、評価者を選ぶ上で二者択一のような方法を取る必要はありません。例えば、適切な外部評価契約者を探した結果、支援する連携の中で評価諮問グループを設置すると決定することもあるかもしれません。評価全体を通じて、評価諮問グループは契約者が計画した方法をレビューし、フィードバックを提供することもできます。評価諮問グループは評価報告書の作成と知見の普及も支援することができます。別の例としては、評価諮問グループがあなたの評価を指揮して実施すると決定した場合に、あなたの組織の生物統計学者が地域のプログラム活動についてのデータを収集する調査を作成して諮問グループを支援することもできます。



評価者のためのサーチツールについては、全米評価学会（American Evaluation Association）のウェブサイトをご覧ください。<http://www.eval.org>

評価者の決定

評価者の専門教育と経験について候補のレベルを必ず審査し、紹介をとるよう気をつけて下さい。このツールキット全体を通じて述べられる CCCB の評価方法に一致した方針、トレーニング、および経験がある評価者と協力することが大切です。

表 1 は、様々な種類の評価者と協力する場合の長所と短所の一部を示します。また、各タイプの評価者と協力する場合にどの程度費用がかかる可能性があるか見当がつくように、費用の指標も表に含めました。最終的に、評価を指揮して実施する人物に誰を選ぶかは、あなたのプログラムの独自の評価ニーズ、期待される内容、リソースに依存します。CCCB の評価方法、そして CDC フレームワークに特有の方針に一致した評価方法、トレーニング、および経験がある評価者と協力することが大切です。すなわち、評価は参加型のプロセスであり、プログラムの向上に活用できる結果を得なければならないということです。

表1 プログラムの評価を指揮・実施する評価者の選択—長所と短所の比較検討

評価の選択肢	長所	短所	費用 ^a
外部の評価契約者	<ul style="list-style-type: none"> プログラムスタッフと提携パートナーの作業負荷の責任を最小限に抑えます。 評価データ収集活動の参加者は、相手が知らない人物であるより率直になるかもしれません。 客観的な視点から高度な評価専門知識を提供することができます。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラム独自の内容に合っていない評価を計画するおそれがあります。 大学を基盤とした評価者は、評価のために、実践的な利用重視の方法に対して、より研究/学術的な方法を取る可能性があります。 コストが高むかもしれません。 	\$\$\$
内部評価チーム	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な選択肢かもしれません。—政府による資金援助を受けたプログラムに対して有効に働いてきた評価方法を適合させるか、またはその方法を導入することで、あなたのプログラムが恩恵を受ける可能性があります。 プログラムの統合を容易にします。 	<ul style="list-style-type: none"> チームの作業負荷と優先事項次第では長期にわたるプロセスになる可能性があります。 あなたのプログラムにはプログラム評価専門に専念するスタッフがいないかもしれません。 あなたのプログラムは何人かのチームメンバーの時間の一部を保護する必要があるかもしれません。 	\$\$
評価諮問グループ	<ul style="list-style-type: none"> 利害関係者との進行中の連携を容易にします。 評価知見の活用を確実なものにするために役立ちます。 	<ul style="list-style-type: none"> 過度の負担がかかったボランティアに、更に作業が加わる可能性があります。 評価を指揮する人物がいない場合には、一部の説明責任の所在が不明になる可能性があります。 	\$
その他の公衆衛生職員	<ul style="list-style-type: none"> 限られたプログラムのリソース節約に役立つ可能性があります。 プログラムの統合を容易にします。 	<ul style="list-style-type: none"> 定量的データにより重く焦点を当てて、プログラムの改善に情報を提供する上で有用な、豊富な質的データを見逃すおそれがあります。 チームの作業負荷と優先事項次第では長期にわたるプロセスになる可能性があります。 	\$

a \$ \$\$ \$=リソース消費的：資金の10%以上を必要とする可能性があります。\$ \$=既存のスタッフメンバーの時間の一部など、中程度の資金投資を必要とします。\$=一般に、最小限の資金投資を必要とします。大部分の調査費用は、現物出資で（例えば、プログラムのスタッフの時間、ミーティング会場）賄われます。

参加型評価アプローチは、CCCBの資金提供を受けるプログラムの要件と連携して、プログラムの改善と影響を最小限に抑えるためにプログラムのスタッフと利害関係者が利用することができ、あなたのプログラムの独自内容に適した評価の計画に役立ちます。評価のための参加型評価アプローチは、このツールキットがひな形としたCDCフレームワークに反映されています。フレームワークの第一段階は利害関係者と連携することです。最終的に、「『参加型評価』の目的は、全ての意見に耳を傾けるよう奨励し、焦点と計画を決定する際に、せめて最小限でも考慮に入れることです」⁵。評価プロセスを通じてこの利害関係者の高度な関与を維持することは困難なことかもしれません。しかし、参加型アプローチは、評価プロセスの質を高め、評価知見を最大限に活用するために役立ちます。

参加型アプローチ

評価が内部スタッフ、利害関係者グループ、または外部コンサルタント主導であるかにかかわらず、CCCB 被交付者は参加型アプローチをプログラム評価に導入することが推奨されています。

プログラム評価の費用をどのように賄うか？

評価のためにスタッフを配置することに加えて、多くの場合、評価ミーティング、評価データの収集と分析、および知見の普及を支援するための資金が必要になります。おそらく、プログラム評価の費用を賄う最も明らかな方法は、あなたの CDC 資金の一部を使うことです。しかし、ほかにも評価費用を最小限に抑えるか、または費用を完全になくす独創的な方法があります。

プログラム評価への 支払いのための選択肢

- あなたの CDC 資金の一部（例えば、10%）を使う。
- 地域の公衆衛生教育機関と提携する。
- パートナーからの現物出資を募る。

博士課程や上級の修士レベルの学生は、評価方法について十分にトレーニングを受けている場合が多く、また実習課目、博士論文、または修士論文の要件を満たすために無償であなたのプログラムを評価し、またはデータの収集と解析業務を提供するかもしれません。通常、経験豊かな教職員メンバーが学生の実習または論文の活動を再検討し、監督します。大学院生はほとんどの場合、評価活動を無事に完了するために必要な支援を受けています。大学院生と協力する場合は、この役割を努めることで、または学生の学位論述試験または実習委員会の公開の会合に参加することで多くを学ぶことができるので、あなたのプログラムの評価能力の向上に役立つ可能性もあります。表 2 は、地域の公衆衛生または教育関連の大学院課程と評価協力を交渉する際の助けとなるかもしれません。あなたが要請したいと思うかもしれない業務と成果の一部、そしてこのような協力関係が確実に相互の利益になるように支援するためにあなたが提供できる業務と成果を挙げています。

⁵ Minkler, M., & Wallerstein, N. (Eds.) (2008). Community-based participatory research for health: From process to outcomes (2nd edition). In Chapter 12: Issues in participatory evaluation (pp. 199–215). San Francisco: Jossey-Bass.

表2 大学院生との評価協力関係の交渉—プログラムのニーズと学生にとっての潜在的なメリット

プログラムのニーズ	学生にとってのメリット
<ul style="list-style-type: none"> ● 関連するスタッフおよび利害関係者ミーティングへの学生評価者の参加 ● 評価計画の執筆 ● 主要な利害関係者と協力してロジックモデルを作成 ● 評価データ収集と既存のプログラムデータとデータ収集源に関する書面によるプロトコルと提言 ● 調査または面接指針などのデータ収集ツールの草案 ● 質的データの収集（例えば、面接の実施および／または評価課題に取り組む地域の被交付者と利害関係者とのフォーカスグループ） ● プログラム改善のための提言など、書面による評価報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生の卒業要件を満たすために役立つ、実務に基づく経験 ● 学生の学位論文または実習委員会への貢献 ● 学生の奨学金への応募や就職活動を支援する推薦状 ● 関連する CDC の研修への学生参加の機会（予算とプログラムのガイドラインが許す場合） ● CCCB の資金提供を受けるプログラムが主催する研修または学会に学生が参加する場合の参加料の免除 ● 学校保健および／または就職フェアへの参加 ● 実社会の公衆衛生実務と CCCB の資金提供を受けるプログラムに関する客員講演またはセミナーの提供

学生評価者と協力する場合、計画された学生の作業結果が適切な指導教員メンバーにより再検討され、承認されたことを確認することが重要です。これには学校の教員と主なプログラムスタッフとの間のミーティングを伴う場合もあります。学生とプログラムの両者のニーズと期待が確実に満たされるように、プロジェクトの明確な予定表とタスクリストを作成して記録することも重要です。

調査の費用を賄うための予算への負担が軽い他の選択肢は、CCC 連合または戦略的計画の提携事業からの現物出資を求めることです。例えば、一部のパートナーは、評価計画起案ミーティングまたはフォーカスグループなどのデータ収集活動のための場所を提供できるかもしれません。あなたは、データ収集活動を容易にするデジタルレコーダー、評価ツールのテンプレートなど、所属する組織のリソースを共有できるかもしれません。評価と関連する研究方法の経験を積んだパートナーは、評価課題への取り組みを支援する地域の被交付者と利害関係者からデータを得るために、面接の実施またはフォーカスグループをボランティアで行うかもしれません。最後に、パートナーは既に各所属組織で評価課題に関連するデータを収集しているかもしれません。そのパートナーは、あなたのプログラムのスタッフが評価のためにデータを分析し解釈できるように、データを整理するスタッフメンバーを得ることができかもしれません。

プログラムのパートナーの時間が非常に貴重であることを知る場合、現物出資に対して低コストまたはコストがかからない返礼を提供すると役立つ可能性があります。例えば、寄与するパートナーを専門学会のための原稿や要旨の共同執筆として招きます。これは、提携機関が仕事を進め、また提携機関が予算申請書に盛り込める業績を提供するのに役立ちます。出版物またはプログラムのウェブサイトで、あるいは賞または衛生局からの礼状を通じた CCCB の資金援助を受けるプログラムへの貢献の公的な返礼は、低コストまたはコストがかからない更なる感謝の表現です。最後に、ボランティアで構成される評価グループに対する、マイル当たりの旅費または旅費の償還、ミーティング会場、食事、および／または事務上の支援の提供も、グループの協力関係と意欲の維持に役立ちます。

評価計画を作成するには？

CCC の資金提供公募（FOA）は、各被交付者は正式な年次評価計画を作成する責任があることを明記しています。この評価計画の作成と実施は、効果的なプログラム管理の礎です。最低限でも、評価計画は以下の話題の範囲に及んでいなければなりません。

- 評価利害関係者と興味を持つ主要利用者
- プログラムの背景と説明
- 評価の計画と方法
- 評価知見の普及と活用のために計画された方法

評価計画の策定は CCC 被交付者全員の必要条件です

CCC FOA の受領者活動のセクションに明記されるように、被交付者の成績は正式な年次評価計画が作成され実施された程度によって評価されます。

これらの話題は、いずれもこのツールキットのセクション 2 「CCC プログラムの評価方法」で扱います。

この話題の全てを 1 つの文書（すなわち、評価計画）に表現することで、評価を順調に進める事ができます。評価計画作成のためのチェックリストが 20 ページに提供されています。このチェックリストの構成要素は、「CDC Framework for Program Evaluation in Public Health」の 6 つのステップと緊密に連携しています。評価計画の作成に王道はありませんが、CDC フレームワークは、最良のスタートを切るためのガイダンスを求めるプログラムにとって有用な資料として役立つかもしれません。

このツールキットのセクション 2 は、さらにツールとテンプレートを含んでおり、これらを評価計画に盛り込むと有用かもしれません。このツールとテンプレートは、評価プロセス全体を通じて、評価活動の計画、データ収集活動の監視、および知見の記録を支援することを目的として作られています。



このツールキットのセクション 2 に提供される「評価計画チェックリスト」とガイダンスは、CCC プログラムのための適切な評価プログラム計画の作成と実行を支援することを目的として作られています。

評価利害関係者と興味を持つ主要利用者

- 評価に利害関係がある個人またはグループ、また評価結果を使用できる個人またはグループを列挙して下さい。
- 主要な利害関係者が評価に対して何か期待する可能性があることについて説明して下さい。
- これらの重要な利害関係者といつ、またどのように連携するか、その計画について説明して下さい。

プログラムの背景と説明

- あなたのプログラムのリソース、活動、計画される結果、および目的とする成果を簡単に説明して下さい。この情報は、説明的にまたはロジックモデルに要約してもよいです。
- あなたのプログラムの進展段階（すなわち、完了した主要な活動、現在取り組み中の活動、そしてまだ開始していない活動）を簡単に説明して下さい。
- 何か状況的要因（例えば、採用停止、新しい法案、またはスタッフの交代など）について簡単な説明を含めてください。

評価の計画と方法

- 計画された評価の取り組みの焦点を明確にして下さい。
- 評価の各焦点について具体的な評価課題を挙げて下さい。
- 各評価課題について、指標、データ収集源、および解析活動の責任者について説明して下さい。
- 可能であれば、データ収集と解析活動の実施に誰が責任を持つか明確にして下さい。

評価知見の普及と活用のために計画された方法

- 評価知見の普及のための計画について説明して下さい（すなわち、知見を誰と、いつ、どのように共有するか）。
- 評価知見をプログラム改善の取り組みに確実に活用するためにプログラムの責任者が行うステップについて説明して下さい（例えば、評価知見をレビューし提言を優先順位付けする、プログラムスタッフのミーティングを開くなど）。

⁶ CDC Division for Heart Disease and Stroke Prevention WISEWOMAN Program Evaluation Plan Template より改変。

2. CCC プログラムの評価方法



このセクションは、あなたのプログラムを評価するための実践的な「ハウツー」ガイドとなることを目的としています。

CCC 被交付者評価要件の簡単な概説で始め、次に、CDC フレームワークの実践的な適用を容易にすることを目指して、以下の話題にしたがって評価ガイダンスを示します。

- 評価利害関係者と、関係する主要利用者 (22 ページ)
- プログラムの背景と説明 (30 ページ)
- 評価の計画と方法 (37 ページ)
- 知見の普及と活用 (50 ページ)

これら 4 つの各セクションはその話題に関する基礎的な情報で始まり、情報を適用するプログラムに役立つツールとテンプレートが続きます。各セクションは、プログラムがその話題の重要な全ての要素に取り組んだことを確認するチェックリストで終わります。

評価要件の概観

5 年の資金援助期間の間、米国包括的がん対策プログラム (National Comprehensive Cancer Control Program, NCCCP) の被交付者は、3 つの P を評価することが求められています。

- 協力関係：あなたの CCC 連合の質、貢献、および影響
- 計画：州規模の CCC 計画の質と実施
- プログラム：あなたの CCC 行動計画に概要が述べられた介入が実行され、意図された結果を得る範囲⁷

NCCCP 被交付者は、年次評価計画を提出する必要があります。

⁷ CDC は CDC 以外の資金提供によって実施される介入の評価を行う必要はありません。しかし、プログラムは、プログラム全体 (CDC の資金提供を受けたプログラムと CDC 以外の資金提供を受けたプログラム) の有効性の評価に取り組む上で、これらの介入を評価することを選択することもできます。